

神経筋難病病棟で働く看護師の困難と乗り越え方

～インタビューから明らかになったこと～

酒井宏美 長谷川愛理* 木下智永子 渡邊裕子 圓井和恵 神農祐子*

NHO 鳥取医療センター看護部 1 病棟

Difficulties encountered by nurses working on an intractable neuromuscular disease ward, and the ways in which they overcome these difficulties

-Facts that have been clarified through interviews-

Hiromi Sakai, Airi Hasegawa, Chieko Kinoshita, Yuko Watanabe, Kazue Marui, Yuko Shino*

The First Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence:byoutou1@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

F 病院の神経筋難病病棟で働く看護師のストレスの現状について、平成 21 年度～23 年度にわたって看護研究を行った。ストレスに対してアサーションが有効であるという示唆が導き出されたが、アサーションを浸透させるまでには至らなかった。その後、「病棟を変りたい。」「辞めたい。」などの声が聞かれ、実際に異動・退職していく看護師が少なからずいた。現在、看護師の病棟経験年数は 3 年以下が多く、6 年以上が少ない。このことから、神経筋難病病棟の看護師は精神的負担が強いまま勤務している可能性が高いと考えられる。しかし、看護師によっては精神的負担を感じていながらも、神経筋難病病棟で勤務したいと思っている。そこで、病棟経験の浅い看護師が今後困難に直面した時、その乗り越え方を習得していれば神経筋難病病棟で充実感を持って働けるのではないかと考えた。F 病院の神経筋難病病棟で働く看護師 25 名にフェイススケールを用いたアンケートを実施し、その中から充実感を持って働いていると判断された看護師 5 名を選んだ。その 5 名に対し、困難に感じたこと、それをどうやって乗り越えたか、どのようなきっかけがあったのかについてインタビューを実施し、困難の乗り越え方を今回の研究で明らかにした。その結果、神経筋難病病棟で精神的負担が強い状況下、充実感を持って勤務している看護師でも困難を経験し乗り越えていることが分かった。彼女らの困難に直面した時の乗り越え方として、i) 患者を理解しようとする前向きに関わり続ける姿勢、ii) 自ら声を出して同僚のサポートを得る力、iii) 特性を知り、ありのままの患者を受け入れること、の 3 点が必要であると考えられた。鳥取臨床科学 8(1), 1-5, 2016

Abstract

Between 2009 and 2011, a nursing study was performed to clarify the stress of nurses working on the intractable neuromuscular disease ward of Hospital F. The results of this study suggested that assertion is effective for relieving stress, but the findings were not practically applied. Afterward, nurses reported a desire to quit their jobs or work on a different ward, and many of them resigned or shifted to other wards. Currently, many nurses have less than three years of ward experience, and few have more than six years of such experience. Therefore, nurses working on an intractable neuromuscular disease ward are more likely to constantly feel a heavy mental burden. However, some nurses desire to continue working on this ward despite such a burden. Against this background, we considered that nurses with limited ward experience may be able to work on an intractable neuromuscular disease ward with a sense of fulfillment if they are capable of overcoming difficulties. Using the Face Scale, a questionnaire survey was conducted involving a total of 25 nurses working on the intractable neuromuscular disease ward of Hospital F. Of these nurses, five who were judged to be working with a sense of fulfillment were selected. Interviews were conducted with them to clarify their difficulties, how they had overcome these difficulties, and the factors that had motivated them to overcome the difficulties. As a result, in spite of a heavy mental burden, these nurses working on an intractable neuromuscular disease ward with a sense of

fulfillment had encountered and overcome difficulties. The results of our study suggest that, in order for nurses to overcome difficulties, they need to: i) make efforts to continue interacting with patients positively and understand them, ii) develop the skills needed to ask their colleagues for support, and iii) accept patients the way they are while understanding their characteristics. *Tottori J. Clin. Res.* 8(1), 1-5, 2016

Key Words: 神経筋難病病棟, 看護師の困難, 看護師の充実感, フェイススケール; wards for patients with intractable neuromuscular disease, nurses' difficulties, nurses' sense of fulfillment, Faith Scale

はじめに

F 病院の神経筋難病病棟で働く看護師のストレス現状について、平成 21 年度～23 年度にわたり看護研究を行った。その研究で、看護師のストレス度は高く、ストレスに対してアサーションが有効であるという示唆が導き出されたが、アサーションを浸透させるまでには至らなかった。その後、「病棟を変りたい。」、「辞めたい。」等の声が聞かれ、実際に異動・退職していった看護師が少なからずいた。鎮守ら¹⁾は、「慢性・難治性であるといった疾患特性は、看護が療養上の世話（体位変換、吸引、排泄）に集中するために、日常定期的に不毛感・徒労性・無力感・挫折感を生み出しやすい。」と述べている。このことから、神経筋難病病棟の看護師は精神的負担が強いまま勤務している可能性が高いと考えられる。

しかし、看護師によっては「大変だけど神経筋難病病棟が好きだ。」、「やりがいもあるし、ここで働いていたい。」との声が聞かれており、困難を抱えながらも神経筋難病病棟で勤務したいと思える要因があるのではないかと考えた。そして、今後困難に直面した時、その乗り越え方を習得していれば、神経筋難病病棟で充実感を持って働けるのではないかと考えた。そこでインタビューを実施し、困難に感じた事、それをどうやって乗り越えたか、乗り越えるにはどのようなきっかけがあったのかを明らかにするために以下の研究を計画した。

I. 研究方法

1. 研究対象

F 病院神経筋難病病棟看護師に、充実感についてのアンケートを 25 名に実施した。その中で、充実感を持っている看護師 5 名にインタビューを実施した。

2. 研究期間: 平成 26 年 10 月～12 月.

3. 研究場所: F 病院神経筋難病病棟.

4. 調査方法と内容

1) アンケート調査

アンケート内容は、勤務経験年数、病棟経験年数、そして、充実感を持って仕事をしているかについてフェイススケール (図 1) を使用して尋ねた。

2) インタビュー

(1) 1) のアンケートのフェイススケール (図 1) が 7～6 以上で、同意の得られた看護師 5 名に下記の 3 点について個別にインタビューを実施した。その内容は、①勤務している中で最も困難に感じた体験、②それをどうやって乗り越えたか、③どのようなきっかけがあったのかとした。

(2) インタビューは、プライバシーを保つことができるカンファレンスルームで 15 分程度行った。インタビュアーは研究者の中から 1 名にした。インタビューは許可を得て録音を行った。

5. 分析方法

逐語録を作成し一義一文で抽出しデータとした。その後、語られた意味を読み取りながら類似した内容を整理した。

6. 倫理的配慮

研究の目的・方法を文書で説明し、参加の同意は署名にて確認した。インタビューは本人の承諾を得て録音し、得られたデータは研究以外で使用しない事、面接時にはプライバシーや心理的負担に配慮する事を保証した。院内の倫理委員会の承諾を得た。

II. 研究結果

対象者の背景